



みどりのきずな

平成25年3月29日発行 第20号

【緑区地域福祉計画基本理念】

『地域住民のきずなを深め、みんなが
手を結び合い、住みよいまちづくりを推進する』

—明るい社会を築いてきた高齢者のために—

—未来を築く子どもたちのために—

—障害者(児)が希望を持って地域に生き、働けるために—

編集: 緑区地域福祉計画推進協議会広報部会

発行: 緑区地域福祉計画推進協議会事務局

(緑保健福祉センター 高齢障害支援課内)

千葉市緑区鎌取町 226 番地 1

TEL:043(292)8142 FAX:043(292)8276

150年の眠りから覚めた椎名の

鞆鼓舞

―教師・子ども・地域の方々の協力に

よる再創造の鞆鼓舞―

委員長 岡本 博幸

「伝統」とは長い歴史のなかで、人から人へと継承してきた遺産それが伝統である。そこには人々の思いや願いが凝縮されている。ここ椎名地区の鞆鼓舞もその一つであった。

しかし、椎名鞆鼓舞は忘れ去られ、全て形骸化され伝承の話だけが残るだけになってしまった。鞆鼓舞は復活させなければならぬ。そう考えたのは、椎名地区は大規模開発によって大きく変貌してしまっただけからである。開発は自然遺産・文化遺産を消失させてしまった。同時に人間の魂までもが抜き取られたような気がしてならなかった。消失してしまっただけの鞆鼓舞ではあるが、何とか復活させ地域の伝承文化として継承していかねければならぬと思った。復活は地域の活性化であり、営々と築き上げてきた米づくり文化を守り育んできた人々に対して感謝の気持ちであると考えた。復活の舞は子供たちに委ねたいと思った。舞の継承は未来を拓く子供たちに夢と希望を与えたいからであった。

指導要領に「日本文化の継承と新

たな創造」が学習の目標になった。

椎名小学校が創立140周年記念行事の機会でもあった。森校長先生の鞆鼓舞に対しての熱い思いがあり、先生方が椎名小学校の伝承文化創造の一つにしたいという願いもあった。

機は熟してきたが、事はそう簡単には進まなかった。第一は、伝承文化は古老による口伝伝承のため記録が無い。第二は、地区の鞆鼓舞の装束一式が秘蔵だったため拝見することができなかつたこと。第三は、県下鞆鼓舞を見学しても表現意図が全く理解できない。最後は鞆鼓舞を舞う装束や楽器類がなかつたことであつた。脚本が無ければ自分たちで創作してしまおうということになった。しかし「無から有」を生むことはそう簡単なことではない。脚本制作推敲に二年、演技指導に一年経た。その結果出来上がった脚本は次の構成である。

第一幕「大地の恵みに対して感謝の舞」。第二幕「龍神降雨の舞」。第三幕「村人喜びの舞」。第四幕「龍神を天上に送る舞」。第五幕「天地に対し感謝の舞」とした。練習が始まる。思い通りの演出は難しかった。

先生方と子供達の想像力、そして

試行錯誤の繰り返しで完成した。

問題は用具と衣装と舞台装置であった。笛はピアノカ、ササラはギロ、太鼓は地域、鞆鼓舞はミルクの空き缶、太鼓の撥はラップの巻芯、足袋は地域、わらじは手作り、烏帽子・御幣は神主、拍子木は木工、羽織袴等は保護者の手作り、龍頭は発砲スチロールを削り色付け飾りと工夫を重ね制作した。これは先生方の大変な努力。舞台は地域の方の協力で出来上がった。

平成24年12月7日(金)拍子木の乾いた音。太鼓の重い響き。笛の軽やかな音色が鳴り響く中「150年の眠りから覚めた鞆鼓舞」の幕が開いた。児童は太鼓の拍子に合わせて、鞆鼓舞を叩きながら一挙手一投足に全神経張りつめ舞を舞った。早魘の時農民が天に雨乞いした、その願いを再現させるものであった。「伝統の糸」が結ばれた瞬間であり、舞は神秘的であった。

失われつつある地域性、希薄化していく絆、合理性追求のみの現代。創作鞆鼓舞は地域・人間性回復の舞であったと考えている。

今後、舞を地域から区・市とこの大切さを広めたい。



誉田地区

◆高齢者福祉委員会

鎌取コミュニティ祭り招待事業

第13回 鎌取コミュニティ祭が2月16日(土)・17日(日)開催されました。委員会では、初日の16日に高齢者を招待し、楽器演奏、ダンスの発表会を楽しんでいただきました。

書道、絵画、写真、フラワーアレンジ、手芸等の展示作品も鑑賞していただきました。

昼食は、委員会で食事券を配布し、うどん、焼きそば、とん汁、おしるこ等好みの食べ物を選んでいただきました。



外で食べると美味しいね!

◆鎌取長寿会のひと月

第一日曜日に定例会を開催します。会長・副会長・会計・婦人部・組長から報告があります。

そのほか町内会・民生委員からの情報や連絡があり、誕生会、俳句の披露・解説があります。

また、公園掃除を2回、グラウンドゴルフを4回、鎌取第1公園で行なっております。

第3水曜日は、新聞紙・ダンボール・ぼろ布・雑紙等の資源回収を行なっております。有志の方が一輪車・トラック・軽トラックの提供をして、協力をいただいております。会員の方が、それぞれの役割に生きがいを持って活動しております。

土気地区

◆小・中学生マラソン大会

土気地区部会では、土気地区4中学校区青少年育成委員会が主催し、毎年1月に創造の杜で実施する小・中学生マラソン大会を協賛事業として取組んでいます。

今年は記念すべき30回目となり、

特別ゲストとして柏原竜二選手(富士通)を招きました。選手815名のレースへの意気込みが一段と高まるばかりでなく、模範走法から多くのことを体感できたようです。また、応援に見えた地域住民も各レースの優勝や記録を目指した奮闘ぶりや完走を目指した頑張りぶりに心動かされ、大会は大いに盛り上がりました。

主役を演じた小中学生はもとより、ボランティアの土気高校生徒、地域住民、大会役員等の間に、多岐にわたる交流が生まれ、本地域において希薄になった人と人との「つながり」を広め、深めることもできました。

◆「あすみが丘東サロン」

「あすみが丘東散歩クラブ」が始まりました。

始まりました。

昭和の森公園に隣接した若い世代が多く住むあすみが丘東自治会に友人もなく、家に閉じこもりがちが高齢者もいます。自治会の協力です。3年前に「散歩クラブ」、昨年「いきいきサロン」を開設し盛況です。役員の若さと笑顔に支えられことに散歩では小学生2人がリーダーになり先導・出欠のチェック・おやつ配りと生き生きとした姿に思わず皆が笑顔になります。子どもの頃から奉仕の心を育む好機になればと願い、若い世代の支えに感謝しています。



柏原選手と一緒に疾走!!



笑顔が絶えないサロン活動

椎名地区

◆出来たよ！見てみて！

16mの太巻き寿司だよ

椎名小学校5年生は、12月10日に食育教育の一つでもある太巻き寿司づくりに挑戦しました。

自分たちで育てたお米を使い地域のJA女性部の方々ははじめ、民生委員や福祉団体の人に教わりながら初めての体験でした。

16mの長い寿司を上手に巻くには、みんなが心を一つにし掛け声も合わせ、上手に作る事が出来ました。



**10203
おいしょ！**

◆お元気でしたか

お手伝いしましょうか？

椎名地区では、日頃より向う三軒両隣の人による「助け合い」「見守り」的雰囲気があります。

特に歳末には80歳以上の一人暮らしの高齢者の方を社会福祉協議会椎名地区部会の高齢者福祉員と民生委員とで「お見舞金」を持参して訪問し、「よもやま話」などしながら近況を聞いています。



お元気でですか？

◆地域の底力

「福祉・コミニ懇祭り」開催

地域住民の善意の提供品によるバザーとコミュニケーション



H25. 2. 10

たくさん買ったよ

おゆみ野地区

◆まちづくりフォーラムをおえて

野老真理子とごまりこさんの講演会を終えて「おゆみ野女性の会」の定例まちづくりフォーラムを3月2日に緑保健福祉センターで開催しました。内容を簡単に紹介します。

『大里総合管理会社を立ち上げた母の後を継いで20年になる。営利を目的とする不動産会社だが利益を考えずにする仕事が全体の4割もある。宣伝のためのチラシは大里で行う地域行事が多く捨てられないチラシと自負している。地域貢献活動は200を越えている。社員もボランティアが身につく反射的に行動できるようになり、震災時も自ら行動した。』

今年目標は「あきらめない」。それがないと原発を稼働させる側になってしまふ。全てにおいて自分ができることはなんだろうかと考えてやっている。』

私たちが野老さんのお話を聞いたのは2度目となります。多くの方に聞いて欲しいなと感じました。

◆私達の町の高齢化問題について

おゆみ野地区は他地区と比較して圧倒的に若年層（14歳未満）の人口が多く、今後若者の生育と町の生育があいまって豊かな夢のある地域社会が形成されていくであろうと期待をしています。

おゆみ野地区の高齢者に関しては、65歳以上の高齢化率が8.9%であり、率だけ取り上げると、一見低そうではあるが、おゆみ野1丁目からおゆみ野南6丁目迄の22街区で10%を超える街区は8街区と意外に多く他地区とそれ程代わり映えない状況になっています。

その中でも高齢化率が一番高い街区は19.9%となっています。私はその街区の自治会長として役員にはこの件を常に認識してもらっています。班長には戸別配布資料等に関してはポストインではなく各戸に手渡し、その時一言二言会話を交わしてもらう事により、細かな状況判断をもらっています。

あくまでも個人情報には十分留意し、高齢者等の方々とのお付き合い（触れ合い）に繋がっています。



小委員会

コーナー

地域福祉計画推進協議会内に設置した小委員会の活動報告です。

◆見守りネットワーク検討委員会

高齢者や障害者などを地域でいかに見守っていくかを検討する小委員会です。今年度は会議を7回、講演会開催、実践事例への訪問を行いました。25年度は見守り活動のマニュアル作成を予定しています。

◆小中学校と施設入所者との交流

児童生徒と高齢者のお手紙交流を進める小委員会です。今年度は、小中学生168名と13の高齢者施設でお手紙交流を進めました。

25年度もさらに多くの施設と協力していきます。関心のある施設の方ご連絡をお待ちしております。

◆災害マップ検討委員会

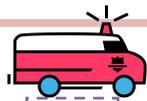
今年度は会議を2回開催し、災害マップには何が必要でどのような活用していくかを協議しました。

委員の一言

コーナー

千葉市身体障害者連合会

坂井 和彦



メール1119 (聴覚障害者向け)



千葉県内の消防救急無線の広域化・共同化について県内を「北東部・南部」「北西部」に分け、平成25年度から運用を順次開始することになりました。

千葉市は「北東部・南部」ブロックにあたり、千葉市にある共同指令センターで受け付けることとなります。受け付けた119番通報により管轄の消防署に自動指令がかかり、管轄の消防署から消防車や救急車が出動します。

尚、北西部の共同指令センターは松戸市にあります。

これまでも県内各消防署(消防本部)では、音声電話によるやりとりが困難な聴覚障害者・言語障害者などの119番緊急通報のために、フアックスやメール、「受話器外し」などのサービスを行っていました。

平成25年度からの消防司令センターの共同運用開始に合わせて、聴覚障害

者を対象とした119番緊急通報のサービスはメール1119に統一されることになっていきます。

●千葉市では携帯メールやパソコンメールで消防車や救急車を呼ぶ事ができます。カメラ付きの携帯電話で、電柱や自動販売機の住所表示を撮影して送信する方法(写メール)でも大丈夫です。

●利用については、各消防署に事前登録が必要です。また、利用可能なのは同一ブロック内のみで、千葉市の登録者が松戸市で利用するなどではできません。登録説明会などへは必ず出席して、説明を受けて下さい。

社協情報



千葉市社会福祉協議会ではマスコットキャラクター「ハーティちゃん」の着ぐるみを貸出しています。地域のイベントで子供たちに喜ばれると思います。ご利用ください。要予約、無料。

電話043(292)8185

おしらせ

「フードドライブ」

(余剰食品の回収)

フードドライブを知っていますか? ご家庭で余っている食品を寄贈していただき、福祉施設や地域で困窮する方の支援に活用します。

皆様のご協力をお願い致します。

●ご寄付いただきたい食品

常温で保存可能で賞味期限が1ヶ月以上あるもの(例) お米・缶詰・乾物他

●回収場所

千葉市社会福祉協議会緑区事務所

(緑保健福祉センター2階)

電話043(292)8185

●主催

フードバンクちば

●期日

5月20日(月)～6月28日(金)

編集後記

緑区の一部で野菜や惣菜のおすそわけ、高齢世帯への声かけ、草取り、植木の剪定、ゴミ出し、荷物運びの手助け、電球の交換、買物の同行等多くの見守りの声がありました。緑区全域で見守り活動が出来るといいなあ(T)